

地区委員会は

- ①ロータリー活動の主体ではありません
- ②ロータリー活動の主体は皆さんが所属している各ロータリークラブです
- ③地区委員会は第2620地区77クラブの支援です地区委員として、
 - ①自らが責任ある課せられた仕事に進んで参加し行動に移すこと
 - ②自らが持つ情報、経験などの能力を磨き上げ、より新しいスキルや知識を身に付け、各ロータリークラブに発信していくこと
 - ③地区委員会メンバー間の協力を惜しまず理解者を増やし後継者を育成する

以上、3点ずつの確認がされました。

インターアクトとは、12歳から18歳までの青少年のための奉仕クラブです。インターアクトクラブは、支援や指導を与えるロータリークラブによって後援されます。インターアクトは、世界中の11,000以上のクラブに所属する250,000人以上の青少年会員がいます。インターアクトは、ロータリーで急速に発展しているプログラムの一つです。インターアクトクラブは、運営面・資金面で自立し、学校あるいは地域社会を基盤として結成されています。名称は、「インターナショナル」と「アクション」が複合されて出来ております。120以上の国や地域に存在し、真の意味で国際的な現象となっています。

青少年交換小委員会 両宮委員長より

青少年交換プログラムは、開催する方向で企画を進めておりましたが、コロナによる世界的な自粛傾向、受け入れる教育機関の体制構築の難しさを鑑みて今年度の実施を見送ることになりました。次年度以降の実施に向けたプログラムの再検証と開催に向けた準備が出来る期間とします。

危機管理委員会 近藤委員長より

国際ロータリーにおける「ゼロ容認方針」の確認と、クラブとしての虐待とハラスメント申し立てと報告の処理手順の説明がありました。

ゼロ容認方針とは、とにかくセクハラや虐待の申し立ての報告があった場合、報告を受けてから(報告があがった場合)その真偽や重大性、刑事上の事件性があるなしかかわらず、72時間以内にRIに報告するというものです。また、ゼロ容認方針とは意を別にしますが、RIに報告すべき重大事故や重篤な疾病等が発生した時にも、関係するすべての学生たちの保護、安全確保、その後のケア等のために72時間以内にRIに報告する必要があります。

クラブでの報告の手順は、

- ・申し立て受領後72時間以内に報告書を作成しRIへ報告する。

- ・事態発生時の第一優先事項「学生を守る」:学生の安全と健康を確保し、あらゆる連絡から遠ざける。このことにより不利益を受けることはないことを伝え安心させる。
- ・学生からの事情聴取:深く耳を傾け冷静に対応する。プライバシーは守るが極秘でないことは伝える。尋問はしない。批判はしない。記録をする。
- ・危機管理委員会へ報告をする。報告をためらうことなく子供たちを守ることに取り組むよう努める。

米山記念奨学分科会

後藤次期米山委員長

皆さんのご寄付のおかげで、第2620地区では4月から新規、継続合わせて28名の奨学生を預かることができました。

2020年度のロータリー米山記念奨学金の事業規模は、奨学生883人、事業費14億6000万円でした。2020-21年度の寄付金収入額は13億3683万円で、毎年の寄付金で事業を運営しています。

第2620地区、2022-23年度目標とお願い事項は以下のとおりです。

- ①地区目標、個人寄付額16,000円以上の達成。
(普通寄付4,000円、特別寄付12,000円)
- ②世話クラブへの立候補(特別な出費はかかりません)
- ③地区米山委員クラブ訪問へのご協力(静岡第2グループは、2022年12月12日から2023年3月17日でスケジュール、詳細は後日打ち合わせの上決定)

RLI分科会

横山次期クラブ研修リーダー

RLIとはロータリーリーダーシップ研究会の略称です。

この研究会は、ロータリー活動を理解することと、ロータリアンの質の高いリーダーシップ教育を通じて、各クラブを活性化することを目的としています。

具体的な内容としては、山梨・静岡2620地区の会員が参加しパート1～パート3まで3回に分けて様々なテーマについて、7～8名ずつのグループでディスカッションを行いながら、ロータリーを深く理解するとともに、リーダーシップを発揮して、自発的なモチベーションを高めてロータリーの活動を活性化させようとするものです。

本来は対面でディスカッションするのが最良ですが、次年度は、コロナの影響でZoom開催が主になりそうです。すでに2620地区2800名の会員のうち200名余が受講しました。他のクラブの会員との交流もできますし、ぜひ多くの皆さんが参加されるといいと思います。